

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 22 年 3 月 19 日)

### 里仁第四

12 子曰く、利しに放りりて行よえば、怨おこな多うらみし。

孔子が言うには、目先の利益に眼がくらんで行動を起こすと、後で厄介事が多いから、目先の利益につられることはやめた方が良い。

「怨多し」は、怨まれるという意味よりは、厄介事が多いと解釈した方がよろしい。

民主党で考えると、小沢さんも鳩山さんも目先の欲につられて、ついつい余計な事をして、しかも嘘を塗り重ねて今の無様な形になっています。一度失敗したなら、「ごめんなさい」と言えばよいものを、そうしないから後が大変です。それもこれも皆、目先の欲につられたからだと捉えればよいと思います。

13 子曰く、能しく礼い讓かを以て国れいを為いめんか、何いか有からん。能れいく礼い讓かを以て国れいを為いめんずんば、礼いを如何いにせん。

孔子が言うには、国を治めるときは、譲り合いの精神をもってするが良からう。譲り合いの精神を持たないで国を治めようとするなら、それはどうにもなるものではない。

国を治めるという点で、自民党と民主党と他の政党で考えてみると、譲り合いではなく足の引っ張り合いですから、日本はどんどん悪くなるのは当たり前だと捉えます。

14 子曰く、位し無くきことを患なえず、立うつ所以れを患れう。己おのれを知るしこと莫なきを患れえず、知しらるべきことを為なすを求もとむ。

孔子が言うには、ポストがないことをいちいち悔やまないで、その地位に相応しい実力が無いことを憂いなさい。自分を知っている人が少ないことをいちいち悔やまないで、人さまに知られるだけの実績を積み、知らず知らずの間に地位は向こうからやってくるものだ。

本日は以上です。有難うございました。